

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

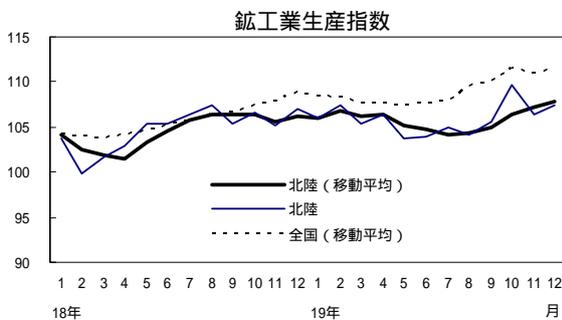
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 11 月)	今回 (平成 20 年 2 月)	
景況判断	回復している	緩やかに回復している	
雇用情勢	着実に改善	改善の動きに一服感がみられる	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、金属工作機械の海外向け自動車関連が好調なことに加え、土木建設機械が前期増設したラインを稼働させたことから、増加している。電子部品・デバイスは、携帯電話関連が国外向けに好調だったことから、増加している。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）の受注増や、後発医薬品の生産増などに伴い堅調に推移している。繊維は、非衣料品のカーシートやエアバックなど、自動車内装材が弱含みとなっているものの、衣料品はスポーツウェア向けの高機能素材が好調だったことから、おおむね横ばいとなっている。金属製品は、アルミサッシが住宅・ビル向けとも不調だったことから、全体としては減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

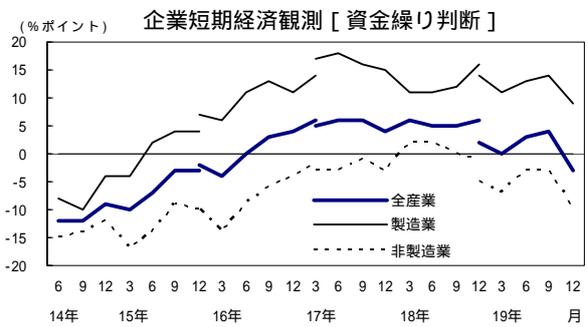
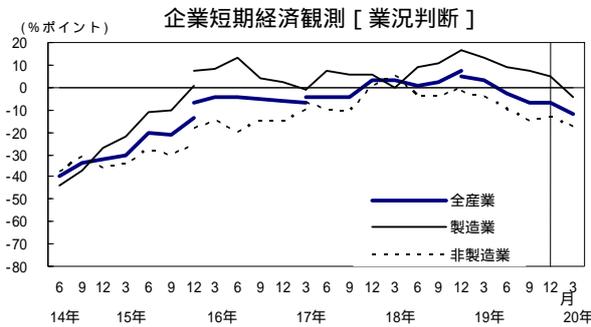
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	14.8	1.1	8.3	-	-
電子部品・デバイス	13.8	5.1	9.7	-	-
化学	12.7	0.0	0.2	-	-
繊維	12.4	2.0	0.1	-	-
金属製品	10.6	1.6	0.8	-	-
鉱工業	100.0	0.2	2.8	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

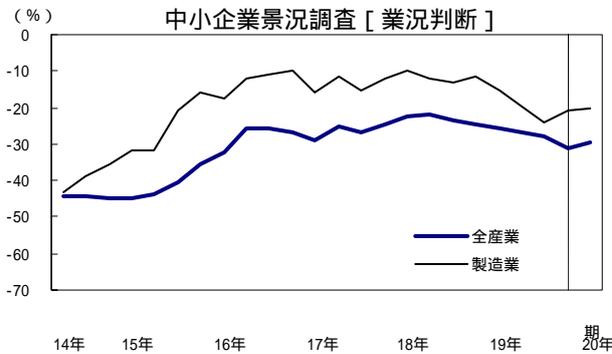
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅に転じている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

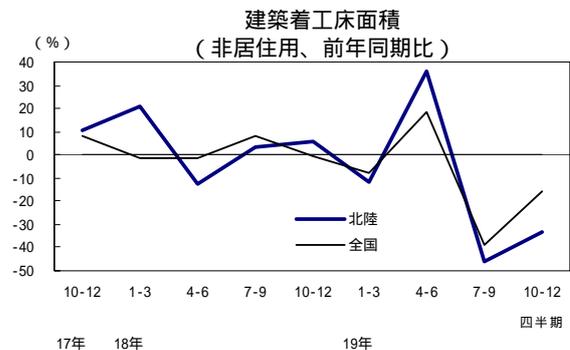
「最近の株式、為替市場の動きを見て、取引先から警戒感を示す発言が聞かれる(金融業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	17.0	15.3(0.5)
製造業	18.3	18.9(0.6)
非製造業	14.1	6.7(3.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

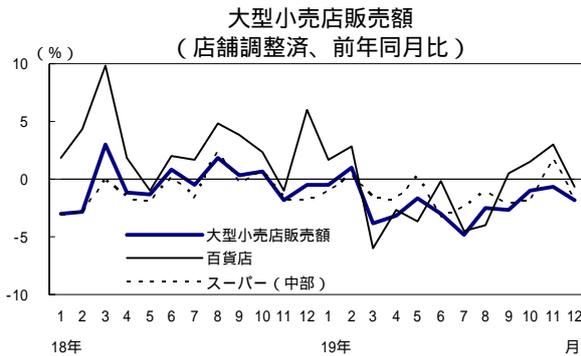
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、気温の低下によって衣料品に動きがあったことから、前年を上回った。11月は、お歳暮商戦が始まり食料品が堅調だったことや、前年に衣料品専門店開業の影響で、衣料品が振るわなかったことの反動により、前年を上回った。12月は、月の前半に気温が高く、冬物衣料品の動きが鈍かったことから、全体では前年を下回った。期を通じて一部で移転開業効果があったことから、前年を上回った。

スーパーは、衣料品、飲食料品ともに動きがあったものの、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「初売りの福袋は縁起物という考え方から、従来、客は中身を確認しなかったが、今年は中身を見てから購入する客が目立った。また、バーゲン品は再値下げの時期に入っているが、客は必要な物以外は買わないという態度を続けている(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

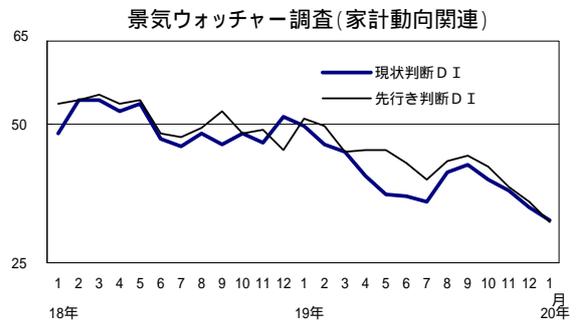
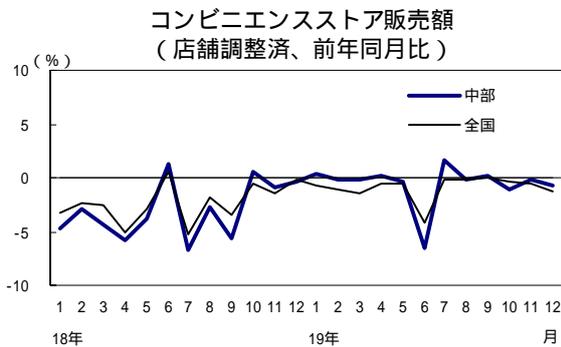
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.1	2.6	3.4	1.2
百貨店	0.8	2.1	2.9	1.0
スーパー	0.8	1.7	1.9	0.7
コンビニ	0.0	2.3	0.6	0.7
景気ウォッチャー	46.9	38.3	40.0	37.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

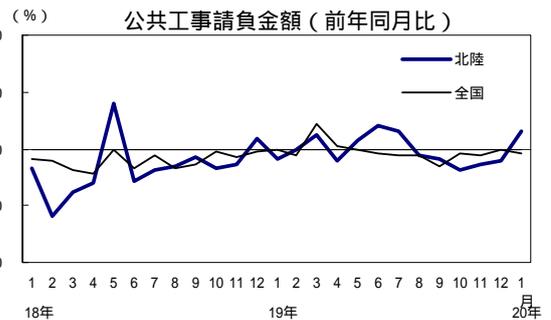
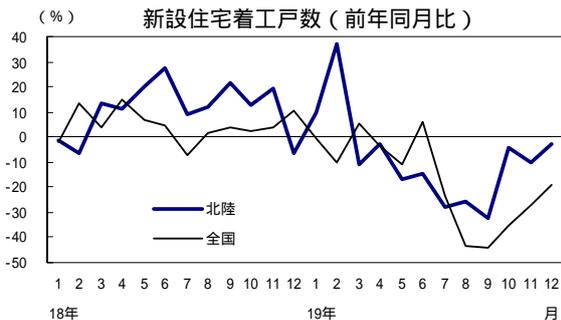
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、給与が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準である。

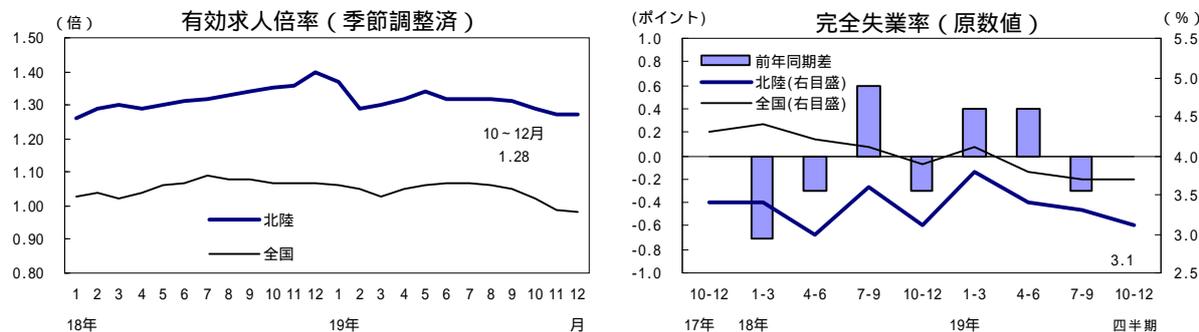


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

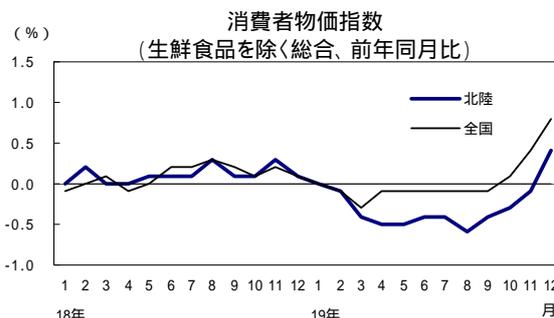
「派遣社員の求人数は前年に比べ減少傾向にあるものの、おおむね堅調に推移している。しかし、人材の確保が依然として厳しく、求人広告の効果もあまり期待できないため、自社内で人材の見直しをする企業が目に付いてきた(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	77	103	71	90	27
(前年比)	4.1	1.9	2.7	21.6	22.7
負債総額	180	304	188	459	81
(前年比)	12.0	15.4	3.0	45.7	17.9



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・ガソリンの値上げからほぼ3か月が経過し、客は高値にも慣れてきた。また値上げしたラーメンなどでは安売り機会が少なくなった反面、別の商品が動いており、全体として大きな変化はない(スーパー)

<先行き>

・コピー用紙の古紙配合率問題から品不足の状態が起きている。今後2、3か月は商品調達や価格調整に時間が掛かり、厳しい状態となる(一般小売店[事務用品])

景気ウォッチャー調査(合計)

